

# スポーツで 広げる新たな 地域づくり

鹿屋市では鹿屋体育大学など地域の様々な資源を活用してスポーツ合宿の誘客を図り、経済効果や競技力向上が見込めるスポーツイベントを開催するなどの取り組みを行っています。今月は、スポーツを通じた地域づくりについてお知らせします。

市民スポーツ課（5階） ☎0994-31-1139

## スポーツで人を集める

2020年に、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、同年には鹿児島県で48年ぶりとされる国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」が開催されることになり、スポーツに関する機運は年々高まりを見せています。この気運の高まりにより、スポーツイベントの開催やスポーツ合宿の誘致など、スポーツツーリズムによる交流人口や定住人口の増加による地域経済への寄与に、関係者も期待が広がっています。

## スポーツ合宿の現状

スポーツは大きくプロアマチュアに分かれます。プロチームが冬季に行うキャンプなどの誘致には球場やサブグラウンド、宿泊施設など、厳しい条件をクリアする必要があります。

一方、実業団や大学生、高校生などは、ある程度の条件が整えば誘致は可能です。

大学生や高校生の部活動は、冬場に暖かい地域で練習を行ったり、また施設使用料の安い地方で合宿を行う傾向が高まっています。県を訪れるスポーツ団体は年々増加傾向にあります。

県においても、スポーツ合宿による交流人口の増加は、地域活性化に効果が期待できることから、積極的な誘致活動を展開しています。

県の統計によりますと、平成26年度の合宿者数は、延べ人数、実人数、団体数のいずれも鹿屋市が県内で最多となっています。しかし、鹿屋市における合宿者数は、近年横ばいの状況が続いており、また、宿泊先も公の施設が人気があり、民間事業所への宿泊数は限られています。そこで市では、スポーツ合宿

## 研究会の取り組み

スポーツコミュニケーション研究会では、着地型合宿の開催に取り組み、昨年8月に2泊3日で鹿屋市空手道連盟と合同で、「鹿屋市空手道交流事業」を開催しました。

着地型合宿とは、合宿者の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する形態の合宿で、出発地の旅行会社等が企画して行う発地型合宿と比べて地域振興につながると期待されています。

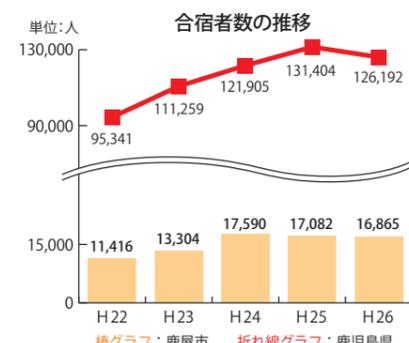
同事業では、インターハイ3連覇を達成した大阪府の浪速高校を招待し、九州各地の強豪高校にも参加を呼び掛けたところ、県外9高校、県内12団体、延べ621人が参加しました。また、「日韓競技力向上スポー

の更なる推進を図るため、昨年7月に競技団体、宿泊事業者と連携して、「鹿屋市スポーツコミュニケーション研究会」を設立しました。

これは、スポーツ合宿に関する宿泊紹介、スポーツ施設の予約、練習相手の調整などスポーツ合宿に関するすべての相談・受付を行い、研究する組織で、将来的にはスポーツに関連する事業を誘致・支援する組織を目指すものです。

このように多くの合宿者が鹿屋市を訪れることで、市内の宿泊業をはじめ、飲食店や仕立業、交通・観光など様々な業種への経済効果が期待されます。

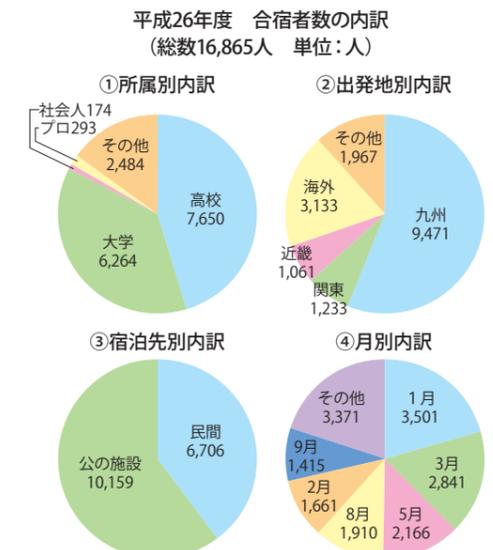
九州新幹線の全線開業、東九州自動車道の開通、また大阪からさんふらわあが就航していることから、鹿屋市における地理的不利は解消されつつあります。多くのスポーツ合宿者を誘致することは、市内の商業施設や観光施設への誘客にもつながり、地域の活性化につながります。学生スポーツという安定した市場で、人を集める役割が求められています。



順位	市町村名	延べ人数
1	鹿屋市	16,865人
2	志布志市	13,623人
3	さつま町	11,816人
4	鹿児島市	10,802人
5	奄美市	8,900人
6	薩摩川内市	8,875人
7	南さつま市	8,631人



1 セーリング競技のナショナルチーム選手と強化選手の合同合宿  
2 空手道交流事業  
3 大久保嘉人選手、田中英雄選手によるサッカー教室  
4 和田毅選手らによる少年野球教室  
5 県民体育大会でのボート競技  
6 鹿屋杯全国高校剣道大会  
7 Vリーグ選手によるバレーボール教室



①所属別内訳では合宿者の多くを高校・大学生が占めています  
②出発地別内訳では、九州管内からの合宿が最も多く、近年は海外からの合宿者が増加しています  
③宿泊先別内訳では、宿泊先は鹿屋体育大学合宿所や大隅青少年自然の家への宿泊数が多く、教育施設が約6割を占めています  
④月別内訳では、1月～3月の冬期に約半分の合宿者が訪れています